

## インド

## 主要データ

国名〔英名〕	インド〔India〕
面積(km <sup>2</sup> )	3,287,263
海岸線延長(km)	7,000.0
人口(百万人)	1,339.3
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	407.4
GDP (bUS\$)	2,835.9
一人当り GDP(US\$)	2,117.4
主要鉱産物：鉱石	ボーキサイト、クロム、マンガン、亜鉛、鉄
主要鉱産物：地金	アルミニウム、銅、鉛、亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山省(Ministry of Mines)
鉱業関連政府機関	地質調査所(GSI: Geological Survey of India)、鉱山局(IBM: Indian Bureau of Mines)
鉱業法	1957年鉱物資源(開発及び規則)法(最終改正は2021年)、2019年 国家鉱物政策(National Mineral Policy 2019)
ロイヤルティ	Notification No. G. S. R. 630(E) (2014)
外資法	外国為替規制法(1999)
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	森林(保護)法(Forest (Conservation) Act, 1980) 森林(保護)法規則(Forest (Conservation) Rules 2003)
鉱業公社	National Aluminium Company Ltd. (NALCO)、Hindustan Copper Ltd. (HCL)、MOIL Ltd.、Indian Rare Earth Ltd.、鉱物探鉱公社(MECL: Mineral Exploration Corporation Ltd.)
鉱業活動中の民間企業	Vedanta Resources Plc.、Hindalco Industries Ltd.、Hindustan Zinc Ltd.

## 1. 鉱業一般のトピックス

## (1) 全般

インドの鉱業は、小規模鉱山が多数存在することが特徴的であり、インド政府が報告<sup>1</sup>を受けて把握している2020年度の鉱山数は1,229件(推定値。2020年4月~2021年3月)、マイナーメタル等を除く)であり、前年度の1,303件(暫定値)より若干減少している。また、2020年度の鉱物の生産高(推定値)については、上位10州で約87.40%を占めている。そのうち上位7州は、Rajasthan州(17.14%)、Odisha州(13.72%)、Telangana州(8.42%)、Andhra Pradesh州(13.32%)、Chhattisgarh州(7.84%)、Telangana州(6.69%)、Gujarat州(5.19%)となっている。また、生産高が前年比で増加を示した主な州としてはJammu Kashmir州(6.30%)、Meghalaya州(6.27%)、Karnataka州(2.53%)、Rajasthan州(0.50%)が挙げられる。

インドは豊富な鉱物資源を有し、石油、石炭、鉄鉱石などのコモディティだけでなく、ボーキサイト、クロム、マンガン、鉛・亜鉛、銅などが賦存しており、生産量では亜鉛スラブは世界第3位、鉄鉱石、アルミニウム地金、鉛地金及びクロム鉄鉱は世界第4位、ボーキサイトは世界第5位、マンガン

<sup>1</sup> <https://mines.gov.in/ViewData/index?mid=1385>

鉱石は世界第7位であった（2018年度ベース）<sup>2</sup>。

## (2) 鉱種別

### ① 鉄鉱石

2019年度の鉄鉱石生産量は246百万tで、2018年度の206百万tより19.19%増加した。各州別の生産量では、Odisha州が59.64%と過半数を占め、次いでChhattisgarh州が14.11%、Karnataka州が12.76%、Jharkhand州が10.93%であった。また、Andhra Pradesh、Goa、Madhya Pradesh、Maharashtra、Rajasthanの各州でも生産されている。報告された鉱山数は、2018年度の254鉱山から250鉱山に減少した。

### ② ポーキサイト

2019年度のポーキサイトの生産量は21,824千tで、2018年度から7.87%増加した。各州別の生産量では、Odisha州が70.95%と過半数を占め、次いでGujarat州が9.50%、Chhattisgarh州が7.18%、Jharkhand州が6.50%、Madhya Pradesh州が3.14%、Maharashtra州が2.73%であった。報告された鉱山数は、139鉱山であった。

### ③ クロム鉄鉱

2019年度のクロム鉄鉱の生産量は3,929千tで、2018年度から1.04%増加した。州別ではOdisha州でほぼすべての量が生産されている。

### ④ マンガン鉱石

2019年度のマンガン鉱石の生産量は2,904千tで、2018年度から2.98%増加した。各州別の生産量では、Madhya Pradesh州が最大で32.99%を占めている。報告された鉱山数は131鉱山である。

### ⑤ 鉛及び亜鉛鉱石

2019年度の鉛及び亜鉛鉱石の生産量は合計14.48百万tで、2018年度から5.28%増加した。州別では、Rajasthan州が唯一鉱石・精鉱を生産している。報告された鉱山数は10鉱山である。また、2018年度から2019年度の1年間で鉛精鉱の生産量は1.98%減少、亜鉛精鉱の生産量は0.71%減少した。

### ⑥ 銅鉱石

2019年度の銅鉱石の生産量は3,952千tで、2018年度から4.41%減少した。報告された鉱山数は5鉱山である。また、同じく銅精鉱の生産量は125千tで、19.78%増加した。

### ⑦ 金鉱石

2019年度の金鉱石の生産量は591千tで、2018年度から4.52%増加した。州別ではKarnataka州でほぼすべての量が生産されている。

## 2. 鉱業政策のトピックス

### (1) 2020年鉱物諸法改正法（The Mineral Laws (Amendment) Act, 2020）等の制定<sup>3</sup>

国内における鉱物生産を維持するために、2020年鉱物諸法改正法によって1957年鉱山鉱物（開発及び規制）法が2020年3月13日に改正された。2020年3月に多くの操業中鉱区の祖鉱権の有効期限が来るため、本改正によって、全ての有効な権利、許可、クリアランス、ライセンス等を新たな権利者にシームレスに移行すること（石炭、褐炭、原子力鉱物を除く）で、国内の利用可能な鉱物の不足が生じないようにした。

そのほかに、2020年鉱物オークション（改正）規則及び2020年鉱物（原子力及び炭化水素エネルギー

<sup>2</sup> World mineral production data compiled from World Mineral Production, 2014–2018; British Geological Survey.

<sup>3</sup> [https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/Mines\\_AR\\_2017-18\\_English\\_Final%2017052021.pdf](https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/Mines_AR_2017-18_English_Final%2017052021.pdf) 及び <https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/EngMineralLawsMines24721.pdf>

一鉱物を除く) コンセッション (改正) 規則が 2020 年 2 月 20 日に公布された。

これらの改正は、鉱山省によってオークションにかけられた鉱区の早期操業開始と、1957 年鉱山鉱物 (開発及び規制) 法 A 条 5 項および 6 項の規定に基づいて期限切れとなる租鉱権について、2 年以内の旧鉱業権者の有効なクリアランスをすべて新鉱業権者に移転することを容易にする。事実上、この改正により、全てのブラウンフィールドの鉱区が恩恵を受けることになることとされる。また、環境森林気候変動省 (MoEF&CC) は、関係ステークホルダーとの詳細な協議の後、2020 年鉱物オークション (改正) 規則に沿って、2020 年 3 月 28 日に環境クリアランス (EC) の通知を、2020 年 3 月 31 日に森林クリアランス (FC) のガイドラインを発行している。

(2) 2021 年鉱山鉱物 (開発及び規制) 改正法 (The MMDR Amendment Act, 2021) の制定<sup>4</sup>

2021 年鉱山鉱物 (開発及び規制) 改正法 (The MMDR Amendment Act, 2021) が 2021 年 3 月 28 日に大統領によって署名され、1957 年鉱山鉱物 (開発及び規制) 法が改正された。

インド政府によれば、インドの鉱業部門は、直接的・間接的に約 11 百万人を雇用しており、約 55 百万人の生活を維持している。雇用を次の 5 年間で 2 倍になれば、鉱業部門は 11 百万人に裨益する。また、2018-19 会計年度に、4.1tINR (インドルピー) がインドの GDP に貢献した。目標を 2024-2025 会計年度における、鉱業部門の目標を 8tINR とした。改正によって、自立した (atmanirbhar) 5tUS\$ の経済成長を成し遂げることを目的としている。

#### 【改正の主な特徴】

① 鉱物生産を急速に増加させることによって、鉱業部門を再活性化させる。

- ・ 自社鉱山 (Captive mines) と商業鉱山 (Merchant mines) との間の区別を取り除くこと。これによって、全ての自社鉱山は、付属プラントの要求を満たした後、年間鉱物生産の最大 50% を公開市場で販売することができる。将来的にはすべてのオークションは、最終消費に対するいかなる制限もなくなる。
- ・ 新たなオークションレジームの下では、セクション 10A(2)(b) (現存のコンセッション保持者及び申請者が持つ権利) により保留中となっている鉱業案件を解決すること。500 件がサンセット条項 (有効期限の事前の定め) の欠如で保留中である。
- ・ 「鉱山操業 (Mining Operations)」としていた用語を「生産と輸送 (production and dispatch)」に置き換えた。「鉱山操業」という用語は、包括的であることから非生産的な権利 (Leases) を取り消しとすることは困難であった。
- ・ 政府系企業によって確保されている、長年生産が行われていない無生産鉱区を再分配すること。

② ビジネスの促進を容易にする。

- ・ 鉱業権の失効又は消滅後でさえも継続する失効した鉱業権の構造的な (Statutory) クリアランスが有効であること、及び次の鉱業権者に移行されること。これによって、鉱業権者の変更にも関わらず、鉱山操業継続性と生産を確保する。
- ・ いかなる課金も課されることなく、全ての鉱物コンセッションの移行を許可すること。
- ・ 「法律上の権原無くして (without lawful authority)」 (セクション 21 (罰則)) の範囲を明らかにした。現在、鉱業事業者は、セクション 23C (違法鉱業の防止、透明性、鉱物の保管に関する規則を制定する州政府の権限) の下で鉱物資源を、探鉱ライセンス、租鉱権、複合権の無い場合やセクション 23C の下で制定された規定に違反した場合において、鉱物を採掘 (Raising)、輸送させたときのみ罰金が課される。

③ 他の構造改革

<sup>4</sup> [https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/Mines\\_AR\\_2017-18\\_English\\_Final%2017052021.pdf](https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/Mines_AR_2017-18_English_Final%2017052021.pdf) 及び

<https://mines.gov.in/writereaddata/UploadFile/EngMineralLawsMines24721.pdf>

- ・中央政府は、地区鉱物基金（District Minerals Foundation : DMF）の構成と利用に関する方向性を示すこと。
- ・州政府がオークション実施の困難に直面した場合やオークション実施に失敗した場合に、権限のある中央政府がオークションを実施すること。

### 3. その他トピックス

(1) Hindalco 社と Hindustan Copper 社が銅精鉱の供給に関する覚書を締結

2020年9月17日、Hindalco 社は、公営企業 Hindustan Copper 社（HCL）と銅精鉱の長期購入及び販売に関する覚書を締結した。「AatmaNirbhar Bharat Abhiyan（自立したインドキャンペーン）」による政府の呼びかけに沿った官民パートナーシップ（PPP）となるもの。これによって、輸入代替に輸入銅精鉱への国家の依存を減らすことへの一歩としている。

本覚書によって、Hindalco 社は、HCL の現在の銅精鉱生産の約 60%（銅含有量）が Hindalco 社の精製銅の製造に使用されるとした。

(2021.02.23 ジャカルタ事務所 白鳥智裕)